

まじら

第8号

東近江の
いいとこ
いいひと
見つける本

TALK ABOUT MY WORK

障害者福祉という仕事。

愚行権と
行使しよう

失敗が嫌いだ。
いつまでも、してしまったことを気にする弱い自分がある。
でも、失敗を失敗で終わらせずに、次に進む大切さを学んだ。
助けを求める力、立ち上がる力を身につければいい。
失敗しても大丈夫。みんなにも、自分にも、そう言いたい。

愚行権=失敗する権利

そこら

第8号

巻頭特集

1 TALK ABOUT MY WORK

高本宜臣さんに聞く 障害者福祉という仕事。

- 13 家具工房 UNOKA
- 14 こんなにあります 牛乳の自動販売機
- 15 湖東流紋岩ってなに!?
- 18 東近江洋館案内 ecole・かきみその役場
- 20 林中央公園のある一日
- 22 東近江市をRUN RUN RUN!
- 24 東近江市のお醤油を 岡八商店・しくマルハチ
- 26 山で鹿を獲る
- 30 東近江市の「とっておき」を伝えたい! 近江匠人
- 32 このまちで育つ
- 34 東近江 午前6時の朝の情景
- 38 東近江の森と人をつなぐ あかね基金
- 40 東近江 MAP



**TAKAGI
NORISHIGE**

Social worker
for disability

高木宣臣

(社福) あゆみ福祉会あゆみ作業所

仕事を続けるか僧侶になるか？

社会人1年目は、建築会社で土木施工管理の仕事に携わっていた高木さん。まだ社会人としての自覚は薄く、仕事にやりがいを見出せなかった彼に、転職が訪れました。「仕事を辞めて寺を継がないか」そう実家のお寺から声がかかったのです。僧侶への道を選んだ高木さんは、僧侶になるための全寮制の学校に入学。テレビなし風呂なしプライベート空間なしの共同生活は、地獄のようだったと語ります。そして卒業後僧侶となり、袈裟をまとって「人生の先輩に説教をするなんて」と変に気負い悩んでいた彼に、先輩がかけてくれたのは「僧侶は門徒さんと門徒さんをつなぐパイプ役だ」という言葉。気が楽になると同時に、人と人をつなぐ意味について考えるようになりました。

やってきた人生の転職

29歳。地元を離れて僧侶の修行をしていた高木さんは、偶然地元のあゆみ作業所が人を募集していることを知り、福祉の世界に飛び込みます。僧侶と福祉の仕事。二足の草鞋わらじを履く生活が始まりました。そこで出会ったのが、別法人の施設で働く先輩。障害の有無に関わらず、相手の人生の最後までとことん向き合う、枠にとられない彼の仕事の姿勢に心を打たれ、『福祉は自由なんだ』との思いが胸に深く刻み込まれました。

僕の仕事は「てん」をつなぐこと。

「誰かに言われてするのはなく、自分がしたいと思うことを作っている面白さがある仕事、それが福祉の仕事だと思えます」そう語ってくれた高木宣臣たかぎのりしげさん。今は障害者福祉の現場で働いています。服が大好きで、見た目はちよつと『チャライ』。だから、とても真面目に仕事をしているのに、あまりちゃんとしているように見えません。でも周囲の人曰く「彼と出会うとみんな落ちる(好きになる)」のだそう。なぜなら彼は、周りの人の悪い点を決して数えず、いいところを見つける天才だから。

そんな高木さんに、天職である障害者福祉の現場で働くまでの道のりと、この仕事の魅力について語っていただきました。



おしゃれ番長高木さん。持っている帽子は60個以上。服を大切に捨てられないので、衣装部屋はいつもいっぱい。草刈りの時もヴィンテージのつなぎで気合いを入れます。



その人を応援するのが仕事なんだ

そして福祉の仕事をはじめて1年目の2月、高木さんにとって天職と言える「就労支援」の仕事への異動が決まりました。障害のある人のそばで、その人が社会に出て働くことができるよう支援する仕事です。

はじめて高木さんが担当した男性は、無事ある会社への就職が決定。けれど1ヶ月後、その会社の社員から言われた言葉は「あいつはいらん」「周りの子たちがかわいそう」でした。「なんでや」高木さんの胸に怒りが湧きました。「僕なら彼ともっと上手に仕事ができる！」それから1ヶ月、高木さんは毎日彼の会社に行き、最初から最後まで一緒に仕事をしました。社員に代わりやるべき仕事を噛み砕いて伝えるうち、3ヶ月後には、彼は会社に必要な存在だと認められるようになりました。

また、別のケースで忘れられない

出会いがありました。作業所にほとんど顔を出さず、周りからどうしようもない人と思われていた女性。人として本気でぶつかり、分かり合えたと思っても裏切られることが繰り返されました。そんな彼女も無事就職が決定。その時こんなことを言われたそうです。「家にはいたくありません。本当は作業所が家で、みんなを家族みたいに思ってたんや。でも、作業所やと普通の人と同じような暮らしをすることはできへん。だから、作業所に行く意味がわからへんようになった。ありがとう。いつか仕事が続いたら一緒にご飯食べに行こな」。それから彼女の仕事は、続いたり、続かなかつたり。どんな時も、彼女の仕事と人生を応援し続けることに変わりはありません。



美談じゃ終われない。そこが面白い

うまく行くこともあれば、そうじゃないこともあります。でも、福祉の仕事のすごいところは、関わった人たちと切っても切れない関係になれて、ずっと遠くからみんなを見守ることができるということ。

出会う人一人一人が『ニュータイプ』。新しい出会いには新しい発見があると高木さんは言います。みんなに言いたいことは「しんどい時も、調子いい時も、僕がそばにおんで」ということ。「積み重ねた失敗の『てん』と『てん』を数えても何も生まれない。でも、なぜ失敗してしまっただのかを一緒に考えて、数々の『てん』をつないでいけば、その先に行くことができる」。

仕事を続ける中で、不本意だと感じることもありました。「でも、みんなと関わり続ける中で、気がついてら笑って仕事をしている自分がいる。現場を楽しんでいる自分に気がついたんです」。

福祉の仕事はあくまで裏方。でも、どんな困難を抱える人も、みんなが当たり前の日常を続けていくために、明日も仕事に向かうために、なくてはならない仕事です。

関わる人、自分、そして支え合う仲間たち。なかなか形にならなくても、それぞれの変化を感じることができる、それが仕事の面白さだと高木さんは教えてくれました。

高木さんの良い所

「一人一人の個性を大切にしよう、理解しよう」
「無理を強いる人でもいます」
「みんなが笑顔になれるように、自分も笑顔でいたい」
「みんなが笑顔になれるように、自分も笑顔でいたい」
「みんなが笑顔になれるように、自分も笑顔でいたい」

↑
職場のみんなが
書いてくれた
高木さんの良い所



AM9:50 ボーナス交渉

働く人たち自身が年に2回、ボーナスの交渉を行います。みんなで交渉内容を打ち合わせしたあと、本番に臨みます。カレンダーの売り上げは少し目標に届かなかったけれど、草刈りなど頑張ったので、なんとか5,000円のボーナスを獲得。「残りのカレンダーも頑張って売ろう!」なかなか首を縦に振らない所長さんに、思わず上がった声は『カンベンしてくれ!』



要求額どうする?



事務仕事が
終わらへんなー



デスクワーク AM11:00

事務所でメールチェックなど。手作りの品を販売するウェブサイト“Creema”に工房の製品が出店されていて、高木さんはその担当。主任である高木さんには、書類仕事も多く、様々な会議にも出席しなければなりません。机にはたくさんのファイルが並んでいます。

高木さんの

あ る い ち に ち

2020年、コロナ禍で神経を使う日々。でもみんなを応援する毎日はノンストップです。

AM7:30 朝のお迎え

1日の最初は「おはよう」から始まります。自力では施設に来ることができない人を、車でお迎えに。作業所へ向かう送迎車。Aさんは妖怪ウォッチに夢中。イヤホンで音楽を聴きながら、ずっと体操をしています。今日も元気でよかった。



ミーティング AM8:30

職場に到着。元気にラジオ体操をしたあと、班ごとに朝の点呼とミーティング。本日の仕事分担を決めます。内職、さをり織りなど担当が決まっていきます。「工房行きたい人!」の声には立候補がたくさん。人気のお仕事のよう。



PM5:00 ラーメン作り

今日は、男3人で「みんなの家」に集まり、ご飯を作って食べる日。「みんなの家」は何か好きなことをやりながら、生きていくために必要な暮らしの力を、楽しく身につける場所です。この日はラーメンを作ることにになり、まずスーパーで買い出しに。それぞれ違う味にします。「じゃあ、またな」次に彼とまた会う約束ができたことに、ホッと一安心。



麺、ネギ、チャーシュー、メンマ、煮卵あと何かいる？



おれ麺ゆでるし、スープいれといてな〜



できた！めっちゃうまそう！



いけるわ



ラーメン作れたらなんでもできる一人暮らしもできるようになるぞ

「同じ日は1日もなくて、押し寄せるワクワクとトラブルが日常です。明日は新しい関わりを楽しみたい」と高木さん。今日も1日、お疲れさまでした！

キャッチボール PM1:00

久々に会うことができた彼と、キャッチボールをします。「最近、何してんの？」「サッカー、どこのチーム応援してる？」何気ない会話をしながら、ボールを投げ合います。彼は空を仰いで、ゆっくり言葉を選びながら、丁寧に返事を返してくれます。



届け！



PM3:00 相談

「企業で働きたい」そんな目標を持つ彼女の声を、チームで応援します。小さな目標を振り返り、よかったこと、頑張ったことについて、みんなで確認したり、困ったことについて、どうすればうまくいくのか話し合ったりします。彼女は言います。「チームのみんなは、影についてくれる頼りになる応援団です」

いろんなところを見学したり、実習に行ったりしような



どうしたら薬の飲み忘れを減らせるかな？





誰かの応援団に誰もがなれる。立場を超えた役割を持てる。この仕事の最大の醍醐味は“誰かとやれる”、自分の応援団がいつも隣にいることなのかもしれない。

応援団から一言

私にとって、仕事とは。

朝9時、「津留さんおはよう」「今日も下請け作業がんばろうな」誰かが必ず声をかけてくれる場所、作業所。いろんな作業を通して今の一人一人にとってベストな働き方を一緒に見つける。そして、これからの働き方を一緒に見つめる。毎日みんなを一番近くで感じられる時間がここにはあります。誰かの応援をしながら誰かに応援される毎日。午後4時「津留さんお疲れさま」の言葉に、一日の疲れが消えていきます。色々あるけど、明日も頑張れそうです。

津留さんから見た 高木さんはどんな人？
いつも見守ってくれる先輩。就労移行の仕事では、道しるべとなる人。自由人。

暮らしを応援 なかがわ 中河さん (支援センター太陽)
応援団に入れてもらって、もう7年になります。どんな毎日が一人一人にとってちょうどいいんだろう。暮らしの中で見つかる小さな心配に向き合いながら、大事なことを教えてもらってきました。私の応援は見えることではないけれど、隣に座って時間を重ねることで一緒に「ちょうどいい」を見つけていける。正解なんかない、それぞれの人生に寄り添い続けられるこの時間。時には大変でもあり、たまらない面白さもある……だから明日も誰かの隣に座るんだろうな。

中河さんから見た 高木さんはどんな人？
方向性がズレた時に、「みんなで考えよう」と言って修正するのが上手。

就労を応援 つじむら 辻村さん (働き暮らし応援センター tekito-)
この地域で働き続ける……そんな一人一人の大事な目標に向き合ってきた。みんなにとっても会社にとっても、ちょうどいい働き方は何かと考えながら、企業やハローワークなど、新しい応援団に広げ繋いでいく、それが自分にできる応援。働き、立ち続ける場所には、必ず意味がある。その意味は、働くステージが変わっても変わらない。そのことを伝えたくて、終わらない応援を今日も明日も続けているのかもしれない。

辻村さんから見た 高木さんはどんな人？
自分大好き人間(笑) その人にとって何が一番かを、いつも考えて突っ走っている。

誰もが互いの応援団



高木さんを取りまく人達

仕事をする中で、どうしても悩むことがあります。壁に当たって苦しい時、一歩踏み出す力をくれるのは、一緒に働く仲間たち。そして、いちばん大きな力をくれるのは、自分が応援していたはずの人だったことに気付かされると、高木さんは言います。

虹彩工房(就労移行支援事業所)で働く、ある女性もその一人。「働き続けること」が目標の彼女が好きなのは、周りの人の印象を「色」で表現すること。周囲を色鮮やかに変えていく彼女の魅力を知れば知るほど、そんな素敵な彼女を応援できるこの仕事を、やってよかったと再確認できるのだそう。もちろん高木さんも、みんなにとって力強い応援団です。

どんなことも、独り占めしないこの仕事。みんながいるから、面白さが膨らみます。



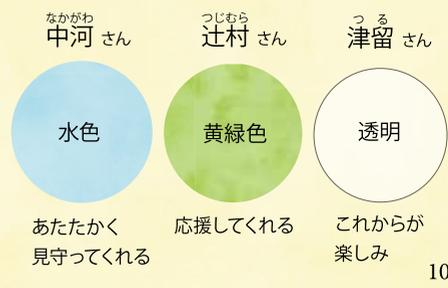
私たちが応援団です!

彼女を応援するために集まった人達。同時に、働く高木さんを応援する仲間でもあります。誰かを応援するために、職場の枠をこえて人々が集まり、関係を築くことができるのも、この仕事の魅力です。

高木さんのイメージカラーは



ほかのみんなは、こんな色



なかがわ 中河さん つじむら 辻村さん つる 津留さん
あたたく見守ってくれる 応援してくれる これからは楽しみ



家具工房

UNOKA

「色や肌触り、音などの木の個性を活かしたものがづくりをしています。シンプルなものにもアクセントの効いたバランスのよいデザインを大切にしています。長く使ってもらいたいから、古くならないデザインだけど、使いたくなるような遊び心も入れていきます」と木工作家の加納久さん。試作品を

能登川東小学校の近く、田んぼの中にひっそりとたたずむ工房と小さなお店『家具工房UNOKA』。おしゃれで温かみのある無垢の木でできたオリジナルのスプーンやフォーク、器を見ていると、つい時間を忘れてしまいます。

毎日の暮らしを、
さりげなく楽しむ。

「色や肌触り、音などの木の個性を活かしたものがづくりをしています。シンプルなものにもアクセントの効いたバランスのよいデザインを大切にしています。長く使ってもらいたいから、古くならないデザインだけど、使いたくなるような遊び心も入れていきます」と木工作家の加納久さん。試作品を

いくつも作ったけれど納得がいかず、途中であきらめたものもあるとか。

加納さんは、地域の子どもたちとの出会いも大切にされています。「制作途中にできた木端を近くの園の子どもたちにプレゼントしています。子どもたちの発想で生まれ変わった木端の作品を見るときは、私たちがだけの特別な楽しさがあります」とお店で販売を担当されている晴美さん。



UNOKA
今町478-2
☎0748-43-2801
※要連絡

question

東近江のおすすめはどこ？

図書館です。ふと、行きたくなってしまう。

福祉って何だ？

その人が当たり前の毎日が続いていくために、関わり続ける。
終わらない仕事が面白い。

「自分らしく生きていきたい」

みんなが持つ、当たり前の願いを応援するのが、福祉の仕事。さて、高木さんにとって、福祉とはいったい何なのでしょう？

うーん。
何だろう？



先日、僕の小6の長男が将来の夢について卒業文集で『父の様に仕事に熱中できる人になりたい』と書いてくれました。息子が僕の仕事を、よく分からないけれど父が熱中している、何だか面白そうだなと感じてくれている。すごくうれしい言葉でした。

そんなに僕が熱中している福祉ってなんだろう？と考えるとみましたがコトバで表現することは難しい。僕にとっての『福祉』は、正解がなく、手探りの仕事です。本人の小さな変化に一喜一憂してしまう地味な仕事だけど、毎日の当たり前の中にあるキラキラを見つける楽しさがあります。しんどい時もあるけれど、**やっぱりこの仕事は面白い。**

question

東近江のおすすめはどこ？ 八日市本町商店街



東近江市の 岩石の世界

湖東流紋岩

ことりゆもんがん

つてなに!?

石の世界の扉をノック

琵琶湖の東側を指す地域名「湖東」。その名を冠する岩石が「湖東流紋岩」です。今回この石の秘密を知るため、我々そこら編集委員は八日市地学趣味の会会長で鉱物化石研究家の磯部敏雄先生を訪ねました。

高等学校の科目でいうと「地学」の分野。あまり知識がない中で、「こんなことも知らないのか」そう怒られはしないかと、不安を胸に恐る恐る磯部先生の自宅兼研究室のドアをノック。すると磯部先生は、満面の笑顔で出迎えてくれ、さっそく研究室に案内してくださいました。

部屋の中は、1万点を超える岩石や鉱物、化石の数々でいっぱい。その中から「古琵琶湖層から採集したものです」と紹介してもらったのは、はるか昔、琵琶湖が今の東近江市から甲賀市辺りにあったころの地層で採集された鯉や鮒の骨、ワニの歯の化石等々。その他にも、高島市で発掘し大発見となった赤水晶や、2人の息子さんたちが幼い時にアメリカで採集した鉱物等が展示されており、「石は重いので、家が大丈夫か心配」と笑いながら話してくださいました。

そんな話題で盛り上がっていると、長男の瑛仁さんがお茶とともに入室。「親父に洗脳されました」と爽やかに笑う瑛仁さんは、鉱物や岩石を標本製作する会社で働いているのだとか。家族みんなが専門家です。

★★★★★★★★★★ こんにちは ★★★★★★★★★★★

牛乳の自動販売機 (ようかいち)



ストローは
取出し口に
入っています

東近江の子どもたちになじみのある黄緑と赤のパッケージ。市内の学校給食を一手に引き受ける田中牧場からは、毎日3.5トンの牛乳が配達されます。学校給食の他には、病院や製菓店などへの卸しに限られるため、スーパーで見かけることはありません。長持ちするよう超高温殺菌する大手メーカーの牛乳とは異なり、田中牧場の牛乳は、栄養や風味と安心安全の両面を考えて、パステライザー(85℃)で15分殺菌されています。その牛乳を誰でも購入できるのが、会社の敷地内にあるこの自動販売機。「学校で飲む牛乳を飲みたい」と買いに来る親子や、遠くからこの自販機を目指して来る人もいるそう。牛乳の他にも、コーヒー牛乳、フルーツ牛乳(ただ今中止中)があります。

2代目社長・田中敬雄さん



田中牧場は、生乳を仕入れ加工を行っています。水口から八日市へ来て90年。この地域の学校給食は神愛牛乳から引き継がれました。5歳から牛乳配達をしていたという社長。牛乳への熱い思いをお話してくださいました。



自販機では3つのサイズが揃う



学校などから手紙をもらうことも。「作業場に貼って励みにしています」



初期の瓶は通常より一回り小さな90cc。フタは王冠だった

田中牧場 外町594(敷地内に駐車可) ☎0748-22-0202



「えちばし」から ↑→



「えつけいはし」から ↑



磯部敏雄先生(左)と瑛仁さん

部屋中石でいっぱい!



東近江の景観を作った石

さて、話は本題の湖東流紋岩へ。この湖東流紋岩は、火山活動でできた火成岩です。今、滋賀県に活火山はありませんが、約一億年前の白亜紀には、旧永源寺町あたりに大きな火山の中心がありました。そして火砕流を伴う火山活動とその後の長い冷却や圧縮作用の結果、中心部から西側に広がって湖東流紋岩が形成されました。その特徴は「とにかく硬い!」と瑛仁さん。採集で割るのも「ほんとうに大変」だそう。安土城や観音寺城の石垣は、なんとこの硬い湖東流紋岩を使って積まれており、これは当時の石造りの技術の高さを物語っているのだそう。さらに、「硬い」という特性がもたらしたのが、この東近江地域特有の景観です。

湖東流紋岩が見られる場所は?

さて、次は「石のある場所を案内しましょう!」と、お二人おすすめの湖東流紋岩観賞スポットに案内していただきました。

まず訪れたのが、大本山永源寺の裏参道へと続く途中の愛知川に架かる「えちばし」付近。ここでは、山肌湖東流紋岩の節理(※)を間近に見ることが出来るほか、橋の上からも愛知川に削られて露出した節理を観察できます。

次に比較対象として訪れたのが、国道421号線の「えつけいはし」。ここでは永源寺の青石と呼ばれる緑色岩が見られ、湖東流紋岩はありません。二つの橋の中間地点、永源寺ダムの堤防あたりが、湖東流紋岩が見られる境目になっていているそうです。興味を持たれた方は、ぜひ一度足を運んでみてください。

※節理 岩体に発達した規則性のある割れ目

「太郎坊宮のある赤神山は、きれいな三角形で独特な山谷ですが、あれは湖東流紋岩が雨による風化や浸食に強いいため、形成されたのです」
 広々とした湖東平野の中に、山体が湖東流紋岩でできている箕作山や織山、雪野山がうずくまる景観は、まさにこの岩の「硬い」という特性が生み出しました。
 硬くて良質、また近隣で採石できることから、この地域では神社の石垣や民家の庭石等にもこの石が使われてきました。五個荘金堂町の大城神社、八日市金屋の野々宮神社等でも見ることができ、実はとっても身近な存在である湖東流紋岩。「まさに、地域の文化に根ざした地域の石なのです」と磯部先生。私たちもテールの上の石を眺めながら、どこか誇らしい気持ちになりました。

question

東近江のおすすめはどこ?

岩石・鉱物・化石が見られる露頭(ろとう)

東近江市で

湖東流紋岩が見られる場所



猪子山



野々宮神社 石垣



太郎坊宮 夫婦岩



琵琶湖

湖東流紋岩が分布する地域

かきみその役場 (旧御園村役場)



街にたたく洒落た洋館。意外に色々とあり、気になっている方も多いのでは？今回は2つの建物をご案内します。

洋館案内

……東近江……

エコール
ecole
八日市清水2丁目11-8
☎090-5019-9045
10:00~17:00
月・火曜定休

かきみその役場
御園地区まちづくり協議会
林田町1223-15
☎050-5801-0503
※内部見学は行っていません

エコー ル
ecole
レンタルギャラリー&カフェ



林田町の八風街道近くにある大きな木造建築。その存在感は、築110年が過ぎた今も変わりません。明治41(1908)年に御園村役場として建てられたこの建物は、1階には村長室、電話交換室、事務室。2階は議場として使われる広い一室だったようです。詳細はわかりませんが、建物下部のレンガ、玄関口、内部の装飾等に洋の要素が見てとれ、ハイカラな当時の面影を感じられます。令和になった現在も、まちの活動拠点としてこの場所に残っています。

八日市市となった後は支所や公民館など様々な用途に使用されました。2010年には、御園地区まちづくり協議会の活動拠点とすべく、地域の人たちが地道な整備作業を行い、『かきみその役場』として開所。名前の由来は「これたかしのう惟喬親王当国君ケ畑にましましける時、此辺に柿を植えて御園となし給う故に柿御園郷とも柿御園庄ともいうといえり」(『おうみやちしりやく近江輿地志略』より)という一文から。現在は、一部を地元自治会の集会所として、また、御園地区まちづくり協議会の活動の場として利用されています。

新八日市駅から歩いてすぐ、建設会社の敷地内にある『エコー ル』。外観からはわかりませんが、中に入ると広々とした木造建築の空間が広がっています。立派な梁はりに高い天井。階段を登ると懐かしい気持ちになります。というのも、この建物は旧制第二尋常中学校(現・膳所高)の校舍だったもの。移築され、近江酒造の酒蔵として昭和40年頃まで使用された後は倉庫となっていました。

2019年、建物に惚れ込んだオーナーの西川清貴さんが自ら改装し、1階にカフェ、2階はギャラリーとしてオープンしました。多くの人を楽しませています。酒蔵だった頃の翹室こやしむろを残し、アルミの壁面もそのままに展示室に改装。1階の床は、排水のための溝に蓋ふたをしており、歩くと木の軋きむ音が。「それもこの建物の魅力。気に入っています」と奥様の裕美さん。芸術を楽しみ、建物を愛で、一杯の珈琲たしなを嗜む。そんなゆったりとした贅沢な時間を過ごすことができる場所です。

12hours

one day

林中央公園 のある一日



16:35

帰宅途中の学生



15:35

午前中も遊びに来てました



13:20

週2日掃除をしてくれます



17:35

帰りもココで一服



15:40

元繁殖犬のハルちゃん 今のはんびり



13:30

だれもない……



18:00

すっかり暗くなった



16:00

仲良しなふたり お外は気持ちいいね



14:05

公園大好き♪毎日来るよ



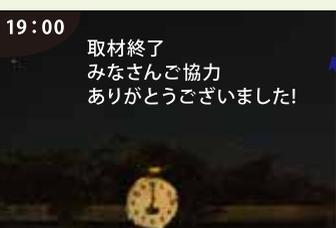
16:15

歓談中 何を話してるのかな?



14:55

保育園の帰りにゴロン!



19:00

取材終了
みなさんご協力
ありがとうございました!



16:20

家に帰ってから遊びに来た♪



15:05

初対面はなんと5分前! 人をひきつけるおじいちゃん……



10:50

だれの忘れものかな…?



9:05

この時間だと1番乗りが多いかな



7:00

まだ人影はまばらです



10:50

にぎやかになってきた!



9:30

天気の良い朝は太極拳をしに来ます



7:05

朝のお散歩でときどき通るよ



11:10

ボール遊びの親子



9:50

お出かけ前の一服中



7:20

公園前を小学生が登校中



12:05

ボン、ボン ボールを蹴る青年



10:40

昔は写真屋さん
今はスマホで写真を撮るそうです



7:40

公園を通り抜けて出勤



12:35

お弁当を買ってお昼ご飯♪



10:40

昔は写真屋さん
今はスマホで写真を撮るそうです



8:25

中学校から校内放送で「パッヘルベルのカノン」が聞こえてくる

ランナーに聞きました！

市内のおすすめコース

- 瓦屋寺～太郎坊宮コース
- 太郎坊宮～百済寺コース
- 猪子山縦断コース など

ランナーおすすめコースを3人で走ってみました

★「瓦屋寺～太郎坊宮コース」

気分はトレイルラン？鈴鹿山脈を横目に紅葉を満喫！



参集殿までの階段ラン



夫婦岩ラン



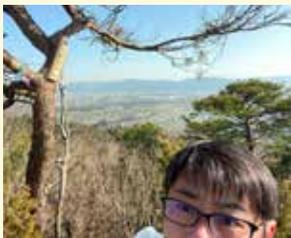
階段ラン かなりきつい！



瓦屋寺到着（麓から2.1km）



太郎坊麓から階段ラン（足が……）

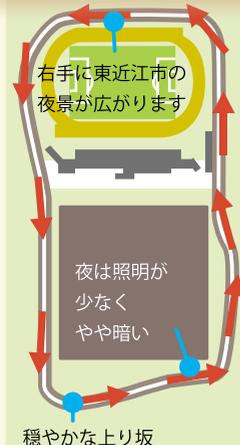


箕作山山頂（八日市市街を眼下に）

【コースのイメージ図】



布引グリーンスタジアム 周回コース



東近江市を

RUN RUN RUN



ランニング大好き(?)なそこら編集メンバーの
富田選手、苗村選手、田中が担当しました。

布引グリーンスタジアム周回コース

走った感想

距離が1km（半周なら600m）と表示されており、自分が走った距離も分かりやすい。取材は平日の夜に行いましたが、隣接する競技場や多目的グラウンドではナイターの利用がよくあり、ナイター照明やコース上の照明で夜でも安心して走るることができます。コースは全体的に平坦ですが多少の起伏もあり、負荷が適度にかかるためコース選択次第でいかようにもトレーニングが可能。

利用者への取材

利用者の多くは市内在住でした。体重の増加が気になり走り始めた人、ウォーキングする親子、大病を患ってからリハビリで利用し始めた人、ウルトラマラソン（100km超）経験者、ランニング教室で知り合った仲間と週に何度か走っている人など様々な人がいました。市外から来ている人も何人か見られるほか、勤務先が市内で毎日階段を使ったランニングを行う人もいて、幅広い方々に親しまれています。

印象的だったのは、「走った後の御褒美は？」との問いに対し、「走ること自体が御褒美」と答えた人が何人かおられたこと。「走ったあとのビールは最高ですよね！」と共感しようとしていた自分が恥ずかしくなりました。

走った感想

取材日は時折雪が降るあいにくの空模様。上りは最初の1kmぐらいまで勾配が急で、ふくらはぎに心地よい負荷を感じます。途中ベンチがあり、景色を眺めながら休憩できます。

瓦屋寺の門前で折り返し、坂を下りますが足への負荷もなかなかのもの。坂を途中で曲がり、太郎坊宮の参集殿へ。この間だれにも出会わずでした。参集殿から一番上の拝殿まで階段を上り、また麓に下り、もう一度参集殿まで階段を上りました。最後の階段では、自分の足から「やめとけ……」という悲痛な声を聞き、ゆっくりとフィニッシュ。

終了後は足がパンパンになりましたが、瓦屋寺と太郎坊宮というありがたいスポットを巡りながらでしたので、爽やかな気分ですりきることができました。



東近江で作られている醤油をご存知ですか？
今回は市内の学校給食にも使用されている醤油と、
その作り手を2店ご紹介いたします。

Higashiomi Syogu
東近江のお醤油を



こだわりの醤油 次世代につづく、安心の味

400年の歴史 水辺の老舗造り醤油屋

しくマルハチ

「昔は醸造所の前と後ろに川があ
つて、醤油を田舟に乗せて西江
州に持っていたりしていた」と岡
田さん。伊庭は、集落内に水路が
張りめぐらされ日常的に田舟が行
き来していた、まさに「水と共に
生きてきた」地域なのです。集落
には今も水路や川戸が残り、その
歴史を感じる事ができます。
岡八商店の醤油蔵も、舟板塀が
使用された貴重な建物です。

「京の水」
をしこみ水として使用。「あそこの
水は、色々な方が汲みに来られるの
で、夜に汲みに行っています」と、
深くこだわりと地域への配慮があり
ます。そのように作られた醤油は、
市内の学校給食にも20年程前から使
用され、東近江のふるさとの味とい
えるかもしれません。
成生さんと奥様の絵里さんは、主
に店舗の運営を行っており、特に
力を入れているのが飲食店やイベン
トへの配達です。また、米の量り売
りや無農薬米、玄米を約30%以上残
した「分つき米」の販売もしていま
す。近年、健康に気を遣う人が増
え、購入も増えています。「今は体
にやさしいものをお客さんに提供し
たいと考えています。特に子ども達
には、安心して食べられるものを」
と絵里さん。その時代ごとに変化を
取り入れ、バトンをつないでいく。
だからこそ、地域から愛されるお店
になるのでしょうね。

question

東近江のおすすめはどこ？

成生さん 中野のむくの木
山の方を向いて道路を走ってい
ると木の奥に太郎坊さんが見え
て。いい景色だなと思いますね。

絵里さん 太郎坊さん
最近子どもと一緒に登りました。
授業で習って、「おもしろい」と
興味を持ったようです。



チラシやポップは手描きで温かみを。
「書くのが好きなんです」と絵里さん



しくマルハチ

東中野町 4-21
☎ 0748-22-1100
9:00 ~ 21:00 無休
【販売】しくマルハチ、
道の駅奥永源寺溪流の里 等

岡八商店

能登川の伊庭町にある岡八商店
は老舗の造り醤油屋。代々「岡田
八郎兵衛」の名で受け継がれてき
ました。現在は岡田栄治さんが醸
造業を引き継いでいますが、「いま
何代目かわからんなあ」とおっし
やるのは、約四百年もの長い歴史
があるためです。
「昔は醸造所の前と後ろに川があ
つて、醤油を田舟に乗せて西江
州に持っていたりしていた」と岡
田さん。伊庭は、集落内に水路が
張りめぐらされ日常的に田舟が行
き来していた、まさに「水と共に
生きてきた」地域なのです。集落
には今も水路や川戸が残り、その
歴史を感じる事ができます。
岡八商店の醤油蔵も、舟板塀が
使用された貴重な建物です。



昭和20年頃までは職人が7〜8
人いて、力仕事の多い醤油醸造を
行っていました。現在は設備も
変わりほぼ一人での作業。それ
も、時間や温度の管理は大切に、
特に火入れの際は一定の温度を越
えると「香りが飛ぶんや」と岡田
さん。やり方が変わっても、職人
の知識と経験がものをいいます。
今は彦根から近江八幡辺りの居
酒屋さんや、東近江の学校給食に
も使用され配達しています。
「醤油を造り、届ける」。その日々
の積み重ねが、長い歴史の一部に
なっていくのです。



この建物の前に川があった



question

東近江のおすすめはどこ？

琵琶湖、内湖
新田を抜けて行って琵琶湖に出
たところかな。あとはやっぱり
内湖かな。

岡八商店

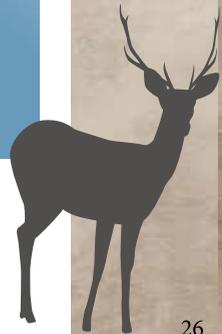
伊庭町 2239
☎ 0748-42-0247
【販売】
岡八商店（要連絡）
びわこ代いなか愛菜館 等

おすすめの使い方は？

おつけもん（白菜の）に数滴かけるとおいしいな。あとはすぼらした大根にも。すきやきも、ざらめひいてみりんいれてな。



山で鹿を獲る



幼いころ、山から聞こえてきた「ブドーン」という音。「猟師さんが、シカとか撃つてややるんや」と親から教えられ、「シカが可哀そう」と思っていたかわいい少年は、今や立派なおっさんになりました。そんなおっさんに「東近江市の狩猟を取材し、シカが捕れるまで続けてください」と鬼編集長の指令が届きました。

というわけで、永源寺地区の猟友会会長の幸野敦弥さん（アユ釣りの元日本チャンピオン）に取材をお願いし、猟へ連れて行っていただきました。今回の狩猟は、猟犬がシカを追い込み、追われたシカが猟師さんの待つポイントに現れたら猟銃で仕留めるという方法です。

【1日目】

集場所は、『金蔵さんの小屋』。お邪魔すると、続々と猟友会の皆さんが集まってこられます。薪ストーブを中心に全員が集まり、作戦会議が始まりました。若手メンバーを中心に様々な提案が上がります。

「マルヤマから、いやイナリから……」

会話が上がっているのは地名なのか、土地勘が無い僕たちには、ほぼ内容を理解できませんでしたが、作戦が決まった様子。シカを追い込む猟犬が選ばれました。太郎、ジョン、みかんです。3匹にはGPSが取り付けられました。



いざ出発 車で現場近くへ移動



現場に到着して準備開始

【くよくよ山へ】

雪のある狭い林道を四輪駆動の軽トラで進んでいきます。この道がめっちゃ狭いし、めっちゃ滑る。どうにかこうにか現場へ到着。

猟師さんはGPSで犬の位置を確認し、仲間からの無線と犬の鳴き声を聞きながら、ポイントに獲物が現れるのを待ちます。

幸野さんのポイントは、川の中の猟銃をセットし、獲物が現れるのを待ちます。

無線から「犬を放した」との連絡が入り、GPSに3匹のポイントが表示されます。獲物を追い、徐々に移動する様子が手に取るようになります。

しばらくすると、3匹の動きが止まり、無線から仲間の声が聞こえます。

「止まりよった」

「イノシシか？」

メンバーの一人が犬のポイントに向かいますが、タヌキだったとの連絡。再び犬が動き出し、今度は、幸野さんのポイントの上の山を通過していきます。

「鳴き声聞こえるか？」

僕たちも耳を澄ませますが、川の流れと雪の降る音以外は何も聞こえません。

「遠いな」

結局、残念ながらこの日はシカの姿を見ることはありませんでした。





上：親子で狩猟をする皆さん



【取材2日目（翌週）】

先週の雪がすっかり消え、晴天の取材2日目となりました。

作戦会議の結果、前回とは別の猟場に立つことが決定。軽トラに乗り込み、それぞれのポイントに移動していきます。

無線で犬を放ったとの連絡があり、GPSで犬の位置を確認した幸野さんから「来よる」の声。犬に付けた鈴の音と獲物を追う鳴き声が近づいていきます。獲

物に気づかれないうように身を潜めていると「ズドーン」という銃声が山に響きます。先のポイントの猟師から「外した」との無



線が入り、次は幸野さんのポイントでしたが、犬の鳴き声は、違う方向に向かっていきました。

一旦、『金蔵さんの小屋』に戻り、遅めのお昼ご飯を食べながら作戦会議を開き、再び現場に戻ります。しばらくすると無線から小さな声で「前におる」との連絡が入ってきました。幸野さんから「動くなよ」と言われ、緊張感が走ります。ズドーンという銃声と同時にシカが走りだします。ズドーン、ズドーン。シカは跳ねるように方向を変え、銃弾で地面の土が飛び散ります。ズドーン、ズドーン。シカが大きく跳ねて、斜面の向こうに消えていきました。

しばらく猟が続き、先ほどのシカを確認しに行くと、土手の下に横たわるシカの姿が。すでに息絶えており、軽トラに積み込んで猟が終了しました。

【有害鳥獣対策としての狩猟の役割】

最近、シカなどの野生動物が増え、農作物への被害が深刻になっているというニュースをよく耳にします。野生動物の増加は、昔に比べて猟師の数が減り、狩猟の機会が減少したことも原因の一つです。滋賀県の野生シカの生息数は7万頭を超えており、東近江市でも猟友会などに協力をお願いしながら、有害鳥獣の駆除を進めています。

取材させていただいた猟友会のメンバーには、おじいちゃん、お父さんも狩猟に従事され、幼いころから狩猟が生活の一部だったという若手メンバーもおられます。そうした若手とベテランがチームとして協力して、シカを追う姿に感動を覚えるとともに、後継者を育て、狩猟を続けていくことの大切さを学びました。



東近江市で鹿肉が食べられるお店

ふる里 まなびや
(道の駅 奥永源寺溪流の里内)

☎ 0748-29-0428

※鹿肉の入荷状況により、提供できない場合があります。

東近江市の「とっておき」を伝えたい！

ブランドロゴマークの完成。

そして【東近江市近江匠人認証制度】ができました！

そこから第5号で取り上げた、「成安造形大学の学生とつくる東近江のブランドロゴマーク」。2017年から始まった制作活動はその後、「東近江市近江匠人認証制度」となり、「物産」を通して東近江市の魅力を広く伝える仕

組みをスタートしました。認証された物産は、ロゴマークを用いて市内外に販売されます。既に近江匠人同士がコラボして新しい商品の開発が進んでいたり、販路が拡大されたりと、新しいものが生まれつつあります。

東近江市 近江匠人認証制度 ブランドロゴマーク



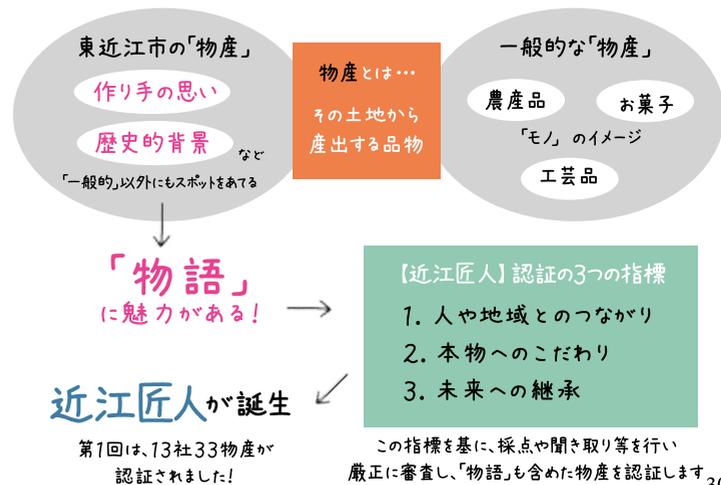
第5号で、ロゴマーク選定の様子を4案に絞り込んだところまでご紹介しましたが、最終的に上記のものが採用されました。

「地図上の現在地を表すピン」がモチーフ。活躍する人々の「東近江の土地で働く!」「ここが東近江だ!」というメッセージや、「この場にいるこの人が作った物産」という意味が込められています。また、形や色合いに「菅笠をかぶり、道中合羽を着こんだ近江商人」のイメージを重ねています。

マークを用いた展示販売の様子



【東近江市近江匠人認証制度】



今回は、近江匠人に認定された事業を3つご紹介します！



七福堂製菓 五個荘石馬寺町723 ☎0748-48-2175

阪田 千彩子さん

五個荘で昭和40年に創業したあらわれ屋さんで、後継者がなく廃業しようとした先代を見て「何とかしたい!」と一念発起し後を継ぎました。地元産にこだわって作られるあらわれ屋、優しい味でどこか懐かしく、温かさを感じます。

居永 友多可さん

農業をしていた父の背中をみて、いつか後を継いで地域に恩返しをと考え農業を始めました。県下初のにくスプラウトの水耕栽培に成功し、販売しています。次は、民泊の受入での体験事業を通して、東近江市の魅力を発信する取組を目指して頑張っています。



グリーンラボ近江 平林町580-4 ☎090-6676-6677



川村工務店 今在家町570 ☎0749-45-3800

川村 克己さん

地域の木をもっと身近に感じてほしいという思いで始まった、木のジャングルジム「くむんだー」。今では市内各地の幼児園でも大人気です。東近江市の木に親しみながら、木の素晴らしさを知ってもらえるように頑張っています。



Nishikawa Kazuki

西川 かずき

NPO 法人愛のまちエコ倶楽部のボランティアスタッフとして活躍する西川かずき君（高校二年生）。中学生の頃、職場体験をここで経験したことがきっかけで菜の花館へ通い始め、いつしか学校が終われば部活動のように参加するようになったそうです。

かずき君がやりがいを感じる瞬間は食用油を製造するためのアブラナの種を選別する作業だそう。真夏の時期に黙々と菜の花の実とゴミの選別を行うのは相当な忍耐力と根気が必要とのことでした。

他にも、同法人が主催している環境学習などのイベントでは、写真撮影などの補助を任されています。今ではイベントの段取りが上手いかわからない時は「ここが違う」と指摘をしてくれるそうで、かずき君は職員に

とつてもなくてはならない存在になっっています。

また皆が口を揃えて絶賛するのが、田植えから収穫まで愛情を持ってお米と向き合う、かずき君の輝く姿です。

特に秋に行われるお米の収穫祭では、田んぼ体験の参加者に稲刈りや稲架（ハサ）掛けを教える立場として活躍しています。実は、かずき君のお家は米農家で、小さな頃からお米が育つ様子を身近に感じていたそう。

現在は高校生となり、生活環境が変化したため、菜の花館に顔を出す機会が減りましたが、それでも休日には活動に参加しているかずき君。「このままここで頑張りたい」と自然や農作物と向き合う意気込みを聞かせてくれました。



Shibata Kurumi

柴田 くるみ

令和2年度から東近江市内の幼児園で働いている柴田くるみさん。彼女は河辺いきものの森で育ったといつても過言ではありません。

イベントが好きなお母さんの影響を受け、幼い頃からいろんな施設の数々のイベントや活動に参加してきた柴田さんが一番お気に入りだったのが、河辺いきものの森でした。スタッフさんたちの人柄や雰囲気が大好きだったからとのこと。

ここでは、ほとんどのイベントの対象が小学生以下ということもあり、中学、高校では活動に参加することは少なくなったものの、大学生のときに、環境問題などについて学ぶCSOラーニング制度で再び森と関わる機会が到来。それ以降、社会人となった今でも、河辺いきものの森の保全活動をしている遊林会のお手伝いをされています。

「やろうと思えば何でも出来る」ことを森で学んだと言う柴田さん。小学生の頃から焚き火をおこしていたことを楽しそうに話してくださいました。

里山保育を理想として掲げる柴田さん。今後は幼児園の先生として、子どもたちがやりたいことを、出来るかぎりやらせてあげられるようにしたいそうです。

このまちで育つ

このまちで育ったから、このまちが大好き。このまちで輝く二人のストーリー。



栗見出在家



キンと張りつめる寒い冬の早朝。栗見出在家の水車橋付近の湖岸沿いから砂浜まで歩きました。寒さもあってか散歩する人の姿はありません。砂浜に打ち寄せる波の音を聞きながら、比良山地の雪化粧を眺め、冬の景色を楽しみました。

八日市駅

しんしんと雪が積もる八日市駅。ロータリーにはまばらに車が寄せ、ドアが開き、人々は足早に改札口へ向かっていきます。



ロングダウンのコートを着て、今日はいつもより早く駅へ来たという青年。これから卓球の大会が草津市であるという。久しぶりの大会に、気持ちも引き締まる。

毎朝同じように見える情景でも、一人ひとりの大切な日々を、近江鉄道は運んでいます。



八日市公設卸売市場

早朝から野菜や鮮魚がトラックで運ばれ、せわしなくコンテナの運搬車が往来します。東近江市の飲食店や小売店を支える市場は、今日のメニューを考えながら品定めする事業者で賑わいます。

この日は、くわいや干し柿など、お正月に向けた食材の売れ行きが好調。青果の販売業者は、朝3時から市場に来て野菜や果実の受け入れを行い、市場での販売がひと段落する朝8時からは配達へ出かけるのだそう。市場は毎日、私たちの食卓を支えています。



東近江 午前6時の
朝の情景



大本山永源寺の溪谷

鈴鹿山脈を水源とする愛知川がゆるくカーブを描きながら、雄大な湖東平野へ流れ出る。

ここは、山々を包む霧が毎朝人知れず、しっとりと溪谷を覆う場所です。これから、少しずつ日が昇って、永源寺は秋の色彩が鮮明に浮き上がります。



前日、車で会社まで行ったが、車を会社に置いてきたので、この日は電車通勤。時々、利用していますとのこと



いつもこの時間に会社まで利用。本を読んで電車を待つ



2番電車の桜川駅

東の空が少し明るくなるころ、2番電車が桜川駅に入ってきます。学生や社会人の方、10人ほどの人が、米原行き電車に肩を丸めて乗り込んで行きました。



早朝の伊庭内湖



人影はなく強い北風が吹きつけていました。湖面には多くの水鳥たちが。空や木にも野鳥がたくさん。温かい羽をまとった鳥たちにこの寒さには関係ないかもしれません。



太郎坊の朝霧

冷え込んだ朝、朝霧が出ていたので、太郎坊宮に登ってみました。そこには、普段とは違う幻想的な景色が広がっていました。



kikitoの森の
現地見学



● 「kikitoの森(フォレスト・モール)」構想の 夢を形にプロジェクト

【一般社団法人 kikito】

森林を整備・管理し、人々が集い活用できるフィールドとして提供できるよう、「kikitoの森(フォレスト・モール)」を実現するための構想づくりに取り組んでいます。

● 自然体験を通して生きるチカラを育む 「つながり隊」事業

【特定非営利活動法人里山保全活動団体遊林会】

里山保全と自然体験を20年にわたり実施。市内の団体と連携を図り、子どもたちに継続的に多様な自然と深く触れ合う機会を市内各地で提供できるよう事業を展開しています。

蒲生地区の梵釈寺で
生きものや植物を
見つけるために
探検中!



探検カードを使った
里山保育実習



● さとやま NANNY プロジェクト

【東近江さとやま Nannies】

東近江市内で実施されている幼児に向けた里山保育と連携し、里山保育や関連する自然体験活動を行うことができる人材を育成するための仕組みづくりに取り組んでいます。

三方よし基金は、地域課題の解決や活性化に取り組む方々に、寄附などをもとに資金・活動支援を行っています。
あかね基金はその一つです。

公益財団法人
東近江三方よし基金

〒527-0012
八日市本町9-19
☎080-2541-9990

令和元年度に集まった寄附をもとに、助成をすることが決まったのが、上記の市内5つの団体です。
そして、令和2年度には東近江市と連携で自治体が行うクラウドファンディングにチャレンジし、多くの寄附を集めました。それらをもとに、令和3年度もあらたに助成する事業を募集しました。
助成が決まったどの団体も、市内で活動しています。機会があれば各団体の活動にぜひ参加して、東近江の豊かな自然を体験してみてください。

東近江の森と人をつなぐ

あかね基金

2020年度
あかね基金
助成事業採択団体

低山を楽しむ
「東近江トレイルツアー」
のようす



● 東近江トレイルツアー

【東近江トレイル実行委員会】

東近江市内北西部を縦断する猪子山、^{いのこ}織山、^{きぬがさ}箕作山から太郎坊までの山歩きができるトレッキングコースの整備、自然環境と歴史遺産を守り地域の活性化を目指す事業を展開し、保全活動の担い手を育成しています。

● あらゆる場面に木を使うプロジェクト事業

【東近江市・木を使うプロジェクト推進協議会】

東近江市産木材を活用して製作した木製品を市内施設に展示し、木の良さや木を使うことへの理解を深め、木材の利用推進につなげていこうと活動しています。

幼稚園で
東近江市産の木のおもちゃで遊ぶ
子どもたち



東近江市の東に連なる鈴鹿山脈は、日本の山地最大の猛禽類であるイヌワシが生息できるすばらしい自然環境だといわれています。イヌワシが棲む森になるには、森・里・川、また湖にいたるまで動植物が豊かであることが重要です。また、その自然環境を将来に引き継いでいくためには、人と森の関わりも大切です。
この「あかね基金」は、そうした自然資本に関わる、森の保全・森の機能や資源の活用・都市との交流・山村の活性化・森の文化の継承などに関わる活動を支援しようと設置されました。

東近江の
自然を守り、
育てたい。

そのための仕組みが、
「あかね基金」です。



こちらからバックナンバーをお読みいただけます
<http://www.city.higashiomi.shiga.jp/lib>



そこら

第8号
 2021年6月20日発行

編集 / そこら編集委員会
 発行 / NPO法人 まちづくりネット東近江

【発行協力】
 一般社団法人 Team Norishiro

【編集協力】
 東近江市立図書館

* Special Thanks *
 取材に協力いただいた皆様

【問合せ】
 NPO法人 まちづくりネット東近江
 〒527-0028 滋賀県東近江市八日市金屋 2-6-25
 ☎ 0748-56-1277 FAX・0748-56-1277
 mail:info@e-ohminet.com

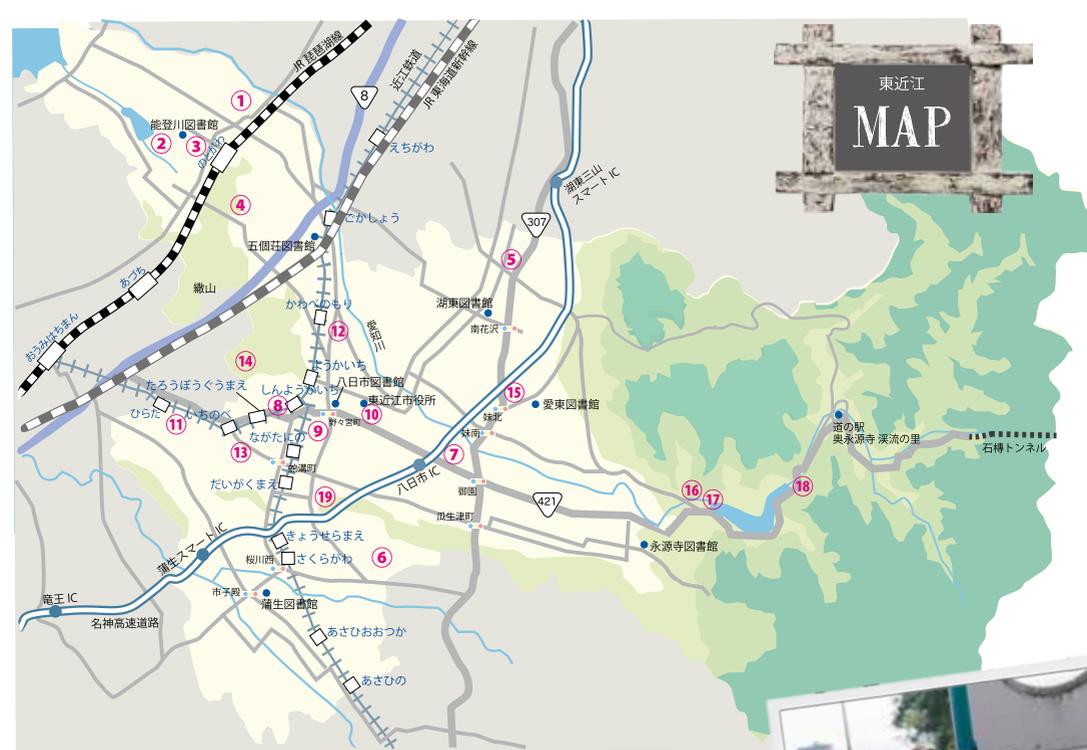
【編集委員】(五十音順)

巻頭特集
 浅田幸宏・高木宣臣・谷 杏奈・西村俊明・
 野々村光子

大澤明・狩野桃江・栗田 豊一・小谷 花彩・
 齋藤 匠男・佐子 都・嶋村 咲利佳・菅澤 合歌・
 橋 良枝・田中 亮・谷 佑一郎・富田 隆史・
 菟村 雅樹・西村 篤・麻田 恭平・羽泉 亮太・
 松浦 純子・森下 瑠美・山根 瑞穂・山口 美知子



この用紙は「びわ湖の森を元気にする」
 kikitoペーパーを使用しています。



紹介させていただいたお店・施設

- ① UNOKA
今町 478-2
- ② 岡八商店
伊庭町 2239
- ③ 林中央公園
林町
- ④ 七福堂製菓
五個荘石馬寺町 723
- ⑤ 川村工務店
今在家町 570
- ⑥ グリーンラボ近江
平林町 580-4
- ⑦ かきみその役場 (旧御園村役場)
林田町 1223-15
- ⑧ レンタルギャラリー & カフェ
ecole
八日市清水 2 丁目 11-8
- ⑨ しくマルハチ
東中野町 4-21
- ⑩ 田中牧場
外町 594
- ⑪ あゆみ作業所
平田町 717-1
- ⑫ 河辺いきものの森
建部北町 531
- ⑬ 東近江八日市公設地方卸売市場
市辺町 2533
- ⑭ 阿賀神社 (太郎坊宮)
小脇町 2247
- ⑮ あいとうエコプラザ菜の花館
妹町 70
- ⑯ 永源寺
永源寺高野町 41
- ⑰ 愛知橋 (えちばし)
永源寺相谷町・永源寺高野町
- ⑱ 越溪橋 (えつけいはし)
萱尾町・九居瀬町
- ⑲ 布引グリーンスタジアム (布引陸上競技場)
芝原町 1503

表紙・裏表紙写真 阿賀神社 (太郎坊宮)





そら

第8号
2021年6月20日発行